

村の話題



実際に人形を操る生徒たち

開田中学で「三国志」上演 生徒らも人形操る

文化庁で行っている「本物の舞台芸術体験事業」による日中合作大型人形劇「三国志」の上演が10月4日、開田中学校で行われ生徒らも実際に人形を操るなどして楽しみました。

上演に先立ち9月7日にはワークショップが行われ、生徒らは公演種目の「三国志」について、その作品の背景や物語の内容などの理解を深めました。また、実際に公演で使われる人形に触って、その大きさや重さ、衣裳、からくり細工のしくみなどを確かめることができました。

10月4日には朝から劇団影法師と中国成都人形芸術劇団の皆さん20名が来校し、公演の準備が行われました。その後、さっそく三国志の第1幕「三顧の礼」、第2幕「赤壁の戦い」が2時間余りにわたり上演されました。

各学年の代表がワークショップで練習した実際の人形を操りながら司会役になるなど、生徒が参加する場面もありステージが大変盛り上がりました。生徒からは「本やテレビゲームなどとは全く異なり、その立体感には驚きました」「人形は、まるで生きているような豊かな表情をしていました」「体育館に入ったとたんに全く変わっていました。それまで見たことのない大規模な舞台セット。演じる皆さんの真剣な表情。音響効果。三国志の世界に引き込まれていきました」といったようなさざまな声が聞かれました。

